

## まじふび

Vol. 16 No. 4

2020. 2. 2

## 「第Ⅱ期福音宣教のスタート！」

主任牧師 中島 聡

「神はわたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました。天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。」 エフェソの信徒への手紙一・二b〜四

二〇二〇年、清水ヶ丘教会は、この年間聖句によって「主のたいなる祝福を確信しよう！」との標語を掲げ、スタートしました。すべての教会の営み、福音宣教の土台は、イエス・キリストによる福音、聖書の御言葉によって据えられており、二〇二〇年は表題の通り、新しい



年の福音宣教と共に第Ⅱ期福音宣教をスタートさせる大切な年となっています。私たちが主によって与えられたこの年

間聖句から受け取り、信じて従い、行動すべきことは何であるのかを示されたいと願います。

この聖句は、二つの部分から成っています。私たちが、「一、霊的な祝福で満たしてくださいました」、「二、お選びになりました」ということです。いずれも完成、完了している表現になっています。ですから、第一に示されることは、この祝福と選びはすでに成し遂げられていることであるから、私たちはすべての歩みを感じから始めることができるという恵みです。私たちは恐れや不安からではなく、恵みに満たされた感謝から歩み出すのです。

次に示されることは、「キリストにおいて」という言葉です。「祝福」と「選び」のどちらも「キリストにおいて」成就されているということです。キリストは私たちの罪を贖う救い主です。キリストにおいてとは、私たちが不完全な者、弱い者、罪人であるにもかかわらず、祝福し、選ぶということです。否、すでに祝福されており、選ばれているのです。

では、その祝福と選びとは何でしょうか。年間聖句の続きを読みますと、「イエス・キリストによって神の子にする」、「愛する御子(キリスト)によって与えられた輝かしい恵みを私たちがたたえる。神の栄光をたたえる。」、「恵みをわたしたちの上にあふれさせる」、「キリストにおいて、聖霊の証印を押し、御国の相続者とする」とこととあります。神の祝福と選びとは、神の国、天国、永遠の命の相続者とされているということなのです。まさに

ハレルヤ!なのです。

しかして、このたいなる祝福と選びに与るのに唯一の条件があります。それは「キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして『信じて』、約束され、聖霊の証印を押しされた」とある通り、「信じる」ことです。私たちは、信じて救われました。同様に、私たちの愛する家族、友のために、私たちはこの福音を宣べ伝えていきましょう。さらにイエス・キリストは、「自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」と、この福音をすべての人に宣べ伝えるように教えられました。

私たち、清水ヶ丘教会は、新しい年、第Ⅱ期福音宣教のスタートにあたって、たいなる祝福と選び、永遠の命の冠を戴いている恵みに感謝して、この福音をあまねく世に伝えるために歩み出すのです。たしかに、少子高齢化、人口減少、多発する自然災害、大型営繕修繕等々、厳しい現状があります。しかし、万軍の主が共におられるのです。恐れることは何一つ無いのです。

祝福と選びによって与えられるもう一つの恵みは、「神の栄光をたたえる」と何度も繰り返されているとおり、私たちが神を賛美できることです。今年も年間聖句讃美歌が西村音楽主事によって編まれ、すでに高らかに賛美が捧げられています。そして、新しい息吹として今年から年間聖句讃美歌に素敵な手話が与えられ、「第Ⅰ礼拝、イブニングチャペルでも賛美していこう!」という声があがっています。教会聖歌隊の賛美、ゴスペルの賛美は、ユース、子どもたちに受け継がれていきます。

聖隷横浜病院、エデンの園でも賛美が広がっていきます。

「主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る」(イザヤ書四〇・三二)。新たな年も主に信頼して新たな力をいただき、互いに祈り合い、助け合い、こぞという時には全力で力を合わせて、福音宣教に仕えて参りましょう！ハレルヤ！



### 「フィレオフィッシュの話」

牧師 片平 貴宣

新約聖書が書かれたギリシャ語には「愛」を意味する言葉がいくつもあり、そのうちの最上級と言いましょか、見返りを求めない無償の愛、与えて与えて与え尽くす愛との意味で「アガペー」が用いられています。

それに対して人と人との愛、「友情・人情」という意味で使われるのが「フィレオー」という言葉です。これらが用いられている箇所がヨハネによる福音書二一・一五以下にある、ペテロの再召命の箇所です。

関東学院小学校の授業で「イエスさまに出会った人々シリーズ」として、ペテロについて学ぶ機会がありました。なぜペテロは主イエスから三回も「わたしを愛しているか？」と問われたのかと言えば、十字架の場で三回主イエスのことを「知らない」と言ってしまったことに対応しています。そしてさらに、日本語では分からないのですが、元々の言葉を見ると実はもつと深い意味があります。それは、同じ「愛」と訳される言葉でも元々

の言葉では違う言葉が使われていることです。

イエス様は三回のうち最初の二回は、「アガペー」と言う言葉を使っています。「私をアガペーするか？完全な愛、無償の愛でわたしを愛するか？」とペテロに問うているのです。

それに対してペテロは、十分に答えていないのです。三回とも「フィレオー」と言う言葉を使って答えています。「私をアガペーするか？」と問われたならば「あなたをアガペーします」と答えるのが本筋なはずですが。

そのように申しますと、当然子どもたちはギリシャ語なんて触れる機会はまだありませんから、「アガペー」なんて初めて聞くわけです。でも「フィレオー」と言う言葉を聞いてこういう子どもがいました。「ああ知ってる、マクドナルドで売ってるやつでしょ？」「フィレオフィッシュとは違います」そんなやりとりをしながら授業を進めています。

けれども後から考えて「フィレオフィッシュ」と言うのもあながち間違いではないというか、悪くない言い方だと感じました。なぜなら、ペテロと言えば「魚」だからです。元々は漁師でしたし、ガリラヤ湖には「セント・ピーターズフィッシュ」と名付けられている魚もいます。

しかし、私たちには「フィレオー」だけでは十分ではありません。神さまの愛を受けてこそ互い

に愛し合えるのです。ですからこう言いましょう。  
 「一緒に、アガペーフィッシュはいかががでしようか？」

マクドナルドの話はさておき、主イエスは二回、「アガペーするか？」と問われましたが、三回目には「フィレオーするか？」と問われました。これは「あなたは私をフィレオーするか。ならばそれでよい」とのメッセージでしょう。そのようにして受け入れてくださるのがまさに神さまの愛、アガペーの愛である、と示されます。

神さまの愛はどんな愛でしょうか？それは人を全く分け隔てしない愛です。神さまはこの世界、天地万物を造られました。そのお造りになったものに目を向けてみますと、その愛が現れています。たとえば、太陽は人を分け隔てしません。太陽の光はよい人にも悪い人にも注がれています。あるいは、雨だってどんな人のところにも降ります。

そして、十字架の恵みもそうです。主イエスの十字架の恵み、救いの業は全ての人に開かれています。心を開いてその恵みを受け取るなら、誰でもが救われます。ここにいる一人一人、そして全ての人々にその愛は注がれています。全ての人を分け隔て無く愛してくださる神さまの愛を受け取りましょう。



動画はこちら。

すばらしいオリテ

ィにびっくり！

ぜひチェックを。